

姉妹都市ウランウデ市訪問記

緑と水のマツウランウデ市

経済交流などでより友好を

姉妹都市の縁結びをしてから四年目を迎えたウランウデ市(ソ連ブリヤート自治共和国首都)を、ことしも四回目の訪問団として八月七日から一週間、野原、池田前野の三氏が訪問、より友好の絆を深めてきました。より友好の輪を広げ、文化、産業などの交流を積極的に行なうことを約束してきました。



ピオネールキャンプ場では、キャンプ中の人から大歓迎を受ける

はるばるウランウデ市へ。ハバロフスクからブラゴベシチエンスク、マダガチ、チタを経て広大なシベリアの山野に圧倒される涼風流れるウランウデ空港に降り立ったのは現地時間九日午前二時でした。(時差の関係で日本時間三時)

空港には市副議長のアレクセイ氏が花束を頂き早速10分程離れた市に入りました。広い舗装された道路と濃緑の街路樹、夜目にも堂々たる建物の風格を覚えました。

ブリヤート自治共和国は世界の淡水の六分の一を持つというバイカル湖を抱く形の国で日本に近い三五万平方キロの面積と僅か八五万人の人口を持っています。そしてこんな自治共和国が他に十五程でロシア共和国を作り、更にそういう共和国十五でソビエト共和国連邦を作っているのですから大変な国です。

さしずめウランウデ市は「連邦の中の共和国の中の自治共和国のあとがあります。現在は一ツしか残っていないことでした。このキャンプは十二歳から十六歳で青い湖の上に組んだ舞台上で民族舞踊などみせられました。十一日は美術館を見学し、農民や牧夫の四季、労働者の生活など大きな画面一杯にリアリズムを鑑賞しました。判り易い具象性をもった大衆的な作品で、こうした大きな絵が駅や空港などにも見かけます。最も得意とする彫金、銀製品、角製品等工芸のコーナーは改装中で見れぬのが残念でした。

次に文化大学という教育学部、図書館学部をもつ大学に行きました。図書研究や付属劇場がありました。市にはブリヤート、オペラ・バレエ劇場もあって民族舞踊のほかロシア古典バレエも盛んとききます。市のブリマバレーナ

のこのコロッコワさんとか著名な芸術家は多くのファンをもっています。チャイコフスキー音楽院には若い人達が沢山学んでいます。大学の学長さんに「ウランウデの演劇史」という三〇〇頁様の本を頂き、一九一七年からはじめて毎シーズンの出し物の記録を見た時びっくりしました。ウペーエフ市長さんが黒沢明のデルスウサーラの主演俳優はブリヤート出身だといっていたのを思い出しました。第十四中学校は三ヶ月の夏休みのためヒソソリしていました。ソ連では五月の終りに卒業式があり六月一日から八月三十一日まで三ヶ月間の夏休みがあります。そのうち一ヶ月はキャンプです。学校は十年制になっていて一年生から十年生まであります。ここ



原田市長に帰留の報告をする訪問団

首都」というべきでしょうか。市庁舎の近く木立を配した専用ホテルは天井の高いロビー、透し彫りのバルコニーをもち、鉄門の前は広場という豪華なものでした。市庁舎訪問

九日午前十時市役所を公式訪問し、ウデ市の要人に面会しました。団長から原田市長よりの親書を讀上げ、持参の地元大野氏製作になる鮭の木彫りを贈呈すると一同手で触って木彫りを確かめた上感嘆の声をあげました。(昨年は魚類の剥製を贈ったので剥製ではないかと思っただけです) 民俗博物館にて

町の女性は季節柄色とりどりのワンピース、ツイード、ミニスカートなど無地や大柄の模様が多く、色も中間色は少く大胆な色です。広場や広い道路、ゆったりと間隔を取った建物、緑の並木、それらを背景に悠々と歩く姿勢のよさやソビエトの女性は美しいものでした。

派手な女性に対し男性は素朴な服装で長髪族、ヒゲ族はついで見かけず、ハバロフスクでやっと見つけたらそれはアメリカ人の観光客でした。(前野記)



↑スポーツ公園入口で記念撮影



↑ウランウデ市庁舎前にて



↑セレガン川船付き場ではコーラスで歓迎を



↑ウデ市幼稚園にて

の三十八歳の校長先生は校舎の一角に日ソ親善の部屋を作るといつてはり切っていました。語学ラボの教室や教育機器などが国と同様取入れつつあります。室内の温水プールや地下に作られた三〇米ほどの射撃場で四年以下は弓、五年以上は銃を使うなど珍しいと思いました。

女性について 会合の際よく国際婦人年の言葉が出て婦人の地位の飛躍的な向上を紹介していました。市執行委に十七人のうち三名を婦人が占めるなど立派なものです。町の女性は季節柄色とりどりのワンピース、ツイード、ミニスカートなど無地や大柄の模様が多く、色も中間色は少く大胆な色です。広場や広い道路、ゆったりと間隔を取った建物、緑の並木、それらを背景に悠々と歩く姿勢のよさやソビエトの女性は美しいものでした。